

看護学科

2023年度 第41期生 前期 入学試験問題
(数学)

泉州看護専門学校

受験番号

※記入しない※

【解答欄】

I.

次の問い合わせよ。

- ① BMI（体格指数=body mass index）は栄養状態を示す指標で、身長(m)と体重(kg)から算出し、成人における体格を示す指標の一つである。

BMIの値は右のように表される。 $BMI = \frac{\text{体重(kg)}}{(\text{身長(m)})^2}$

すなわち、この値の単位は[kg/m²]である。
BMI=22は最も疾病の発病率が少ない基準のため、理想（標準）体重とされている。（右表参照）
身長160cm、体重64kgである成人のBMIを求めよ。
ただし、身長はmに換算すること。
小数点以下の数値が得られた場合は、小数第1位を四捨五入すること。

判定	BMI
低体重（やせ）	BMI < 18.5
普通	18.5 ≤ BMI < 25
肥満1度	25 ≤ BMI < 30
肥満2度	30 ≤ BMI < 35
肥満3度	35 ≤ BMI < 40
肥満4度	40 ≤ BMI

日本肥満学会より

- ② 80個のデータがある。そのうちの60個のデータの平均値は12、残りの20個のデータの平均値は16であった。全体の平均値を求めよ。

②

- ③ $(-\frac{2}{3})^2 \div (-5) \div (\frac{1}{3})^2$ を計算せよ。

③

- ④ $5x - [4x - 3\{2 - x + (4x - 6)\}]$ を計算せよ。

④

- ⑤ 次の3つの数を、小さい順に並び替え、記号で答えよ。

⑤

⑦ $\sqrt{6} + \sqrt{3}$ ⑧ $\sqrt{8} + 1$ ⑨ 4

小 ↔ 大

- ⑥ $(x+y-2)(x+y+11)-14$ を因数分解せよ。

⑥

2.

① 方程式 $9x^2 - 6x - 19 = 0$ を解け。

② 2次方程式 $2x^2 - 3x + m - 1 = 0$ がただひとつの実数解をもつとき、定数 m の値を求めよ。

③ 連立不等式 $\begin{cases} x+1 > -4 \\ 2x+3 \geq 3x-1 \end{cases}$ を解け。

【解答欄】

2.

① $x =$

② $m =$

③

3.

① 全体集合 U を $U = \{x \mid 1 \leq x \leq 10, x \text{ は整数}\}$ とする。

U の部分集合 A, B について、

$$A \cap B = \{1, 6, 9\}, \overline{A} \cap \overline{B} = \{7, 8, 10\}, A \cap \overline{B} = \{3, 4\}$$

とする。このとき、次の集合を求めよ。なお、 \overline{A} は A の補集合を表す。

- (1) A (2) $\overline{A} \cap B$ (3) B (4) $A \cup B$

② $\frac{7}{19}$ を小数表示したとき、小数第1位、第3位の数を求めよ。

3.

①

(1) $\{ \quad \}$

(2) $\{ \quad \}$

(3) $\{ \quad \}$

(4) $\{ \quad \}$

	第1位	第3位
②		

4.

$0 \leq x \leq 4$ のとき, $y = (x^2 - 4x)^2 + 2(x^2 - 4x) - 3$ の最大値と最小値を求めたい。点線枠の空欄ア～セに適する数式を右の【選択群】から選び、記入せよ。なお、同じ数式を何度使ってもよい。また、図⑤、⑧のグラフを完成させよ。

【解き方】

$$y = (x^2 - 4x)^2 + 2(x^2 - 4x) - 3 \quad \cdots ①$$

$x^2 - 4x = t \quad \cdots ②$ とおくと、①は次のように表せる。

$$y = \boxed{} - 3 \quad \cdots ③$$

$$\text{一方}, \quad t = x^2 - 4x = \left(x - \boxed{} \right)^2 - \boxed{} \quad \cdots ④$$

t を x の関数とみると、 $0 \leq x \leq 4$ だから、グラフは右図⑤のようになる。

$$\text{このグラフから}, \quad t \text{ の変域は } \boxed{} \leqq t \leqq \boxed{} \quad \cdots ⑥$$

$$\text{③から } y = [\text{ア}] - 3 = \left(t + \boxed{} \right)^2 - 4 \quad \cdots ⑦$$

⑥の変域における⑦のグラフは、右図⑧のようになる。

このとき、 y は

$$t = \boxed{} \text{ のとき, 最大値 } \boxed{} \text{ をとる。}$$

$$t = \boxed{} \text{ のとき, 最小値 } \boxed{} \text{ をとる。}$$

したがって $t = [\text{キ}]$ のとき、②から

$$x^2 - 4x = \boxed{}$$

$$\text{これを解くと, } x = \boxed{} \quad \cdots ⑨$$

また $t = [\text{ケ}]$ のとき、②から

$$x^2 - 4x = \boxed{}$$

$$\text{これを解くと, } x = \boxed{} \quad \cdots ⑩$$

⑨、⑩は $0 \leq x \leq 4$ を満たす。

以上から、

$$x = [\text{シ}] \text{ のとき, 最大値 } [\text{ク}]$$

$$x = [\text{セ}] \text{ のとき, 最小値 } [\text{コ}] \text{ をとる。}$$

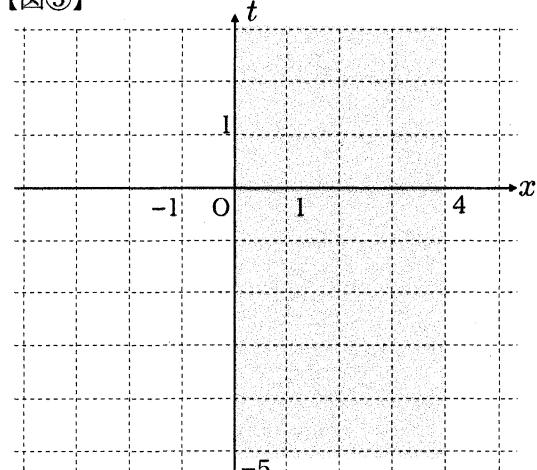
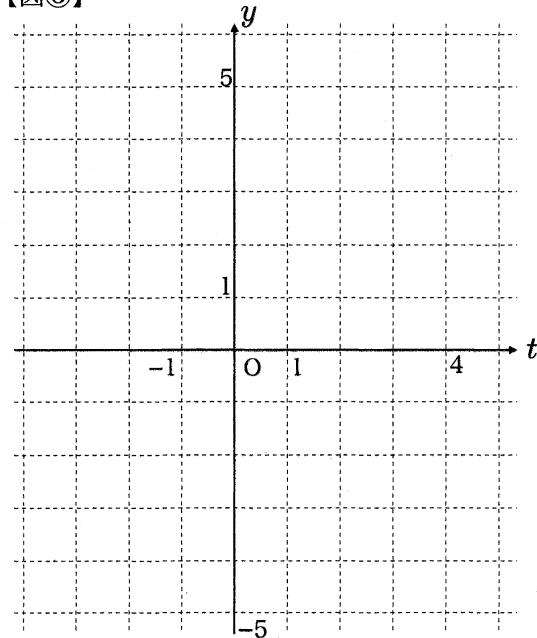
【解答は点線枠ア～セに記入すること】

また図⑤、図⑧のグラフも完成させること。

【選択群】

-4, -1, 0, 1, 2, 3, 4, 5,

$2 \pm \sqrt{5}$, $2 \pm \sqrt{3}$, $t^2 + 2t$, $t^2 - 4t$

【図⑤】**【図⑧】**

5.

$0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$ とする。次の問いに答えよ。

① $\cos \theta = \frac{2}{7}$ のとき、 $\tan \theta$ の値を求めよ。

② $2 \sin \theta - 1 = 0$ となる θ の値を求めよ。

【解答欄】

5.

① $\tan \theta =$

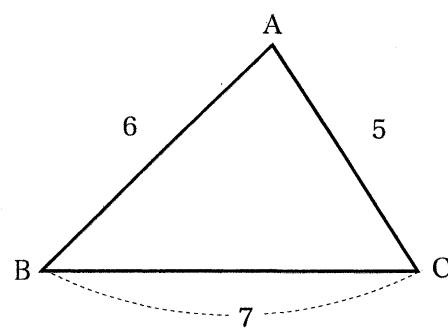
② $\theta =$

6.

右下の△ABCにおいて、

$BC = 7$, $CA = 5$, $AB = 6$ のとき、次のものを求めよ。

① $\cos A$



② △ABCの面積

③ △ABCの外接円の半径

④ △ABCの内接円の半径

6.

① $\cos A =$

② $\triangle ABC =$

③ 外接円の半径 =

④ 内接円の半径 =

**2023年度 第41期生前期 入学試験問題
(英 語)**

泉州看護専門学校

I 次の時事に関する英単語・語句を訳しなさい。

1. Lawmaker
2. prime minister
3. graying population
4. demographic decline
5. gender balanced

II 次の1~5の語について、A:Bの関係がC:Dの関係と同様になるように、()の中に適当な単語を書き入れなさい。

A	:	B	:	C	:	D
1. good		bad		hot	()	
2. fail		succeed		pull	()	
3. gain		obtain		answer	()	
4. arms		weapon		force	()	
5. sight		view		opportunity	()	

III 次の①~⑩の文の()に、下の〔 〕の中から適当な語を選んで番号で記入しなさい。(同じ語を何度も使っててもよい)

- ① The girl was dressed () pink.
- ② He () to have paid the money last week.
- ③ Let me take a look at this photo, () you?
- ④ He plays tennis every day, and so () she.
- ⑤ If it () not for air, we could not live.
- ⑥ () it be true that she failed in the test?
- ⑦ I () my purse stolen on the train.
- ⑧ If a UFO () to come close to you, what would you do?
- ⑨ A man is known () the company he keeps.
- ⑩ He was not pleased with the result, () was I.

[1. by 2. were 3. in 4. does 5. can 6. nor 7. had 8. will 9. ought]

IV 次の①～⑩の文は様々な比較表現の文です。下の〔 〕の中より適当な語を選んで番号で答えなさい。(重複して使用してよい)

- ① He is () clever than wise.
- ② Kenji is senior () me by two years.
- ③ I prefer English () mathematics.
- ④ Naomi is () older of the two.
- ⑤ She had better marks than () other student in her class.
- ⑥ Taro worked all the harder () he was praised.
- ⑦ He does not know English, still () german.
- ⑧ It is () warm today than it was yesterday.
- ⑨ She had no () than 500 yen in her purse.
- ⑩ He is none the happier () his great fortune.

[1. more 2. of 3. less 4. most 5. any 6. for 7. to 8. because 9. last 10. the]

V 次の1～5の各組の文について、上文と同意となるように下文の中に適当な語を書き入れなさい。

- 1. { Though I helped her, she failed.
She failed () () of my help.
- 2. { Because she didn't know what to say, she remained silent.
() () what to say, she remained silent.
- 3. { She would not tell him her age.
She would not tell him () () she was.
- 4. { I am sure of success.
I am sure () I will ().
- 5. { His death followed close on he death.
He died () () she died.

VI 次の①～⑤の日本文に合うように、〔 〕の中の単語を並びえたとき、その2番目と5番目にくる語の番号を書き入れなさい。

①その事故では3人を除いて皆負傷した。

All [1. were 2. three 3. but 4. the accident 5. in 6. injured].

②手紙は封筒に入る前にもう一度目を通しなさい。

Look over [1. before 2. put 3. in an envelope 4. your letter 5. you 6. it].

③私たちは時代遅れにならないようにならなければいけません。

We [1. to keep 2. touch 3. to try 4. have 5. with 6. in] the times.

④明日の夕方お訪ねしてよろしいかしら。

I wonder [1. it 2. be 3. to visit 4. if 5. all right 6. would] you tomorrow evening.

⑤あなたの代りに私が行ってはどうでしょうか。

What [1. in your place 2. to 3. my going 4. do 5. say 6. you].

VII 次の文を読んで下の間に答えなさい。

Japan's space probe Hayabusa2 has sent its capsule to a perfect landing on Earth. The Japanese space agency says it has
(A)
retrieved the capsule, designed to carry sand samples from a distant asteroid.

Stargazers in Australia saw something like a shooting star at 4 a.m. local time on Sunday. That was the capsule entering the Earth's atmosphere. Its parachute opened at an altitude of 10 kilometers before the capsule touched down in the desert.
(B)

Officials at the Japan Aerospace Exploration Agency, or JAXA, say a search helicopter spotted the pan-shaped container, which is about 40 centimeters in diameter. One official described it as a "treasure chest."

It will be flown to Japan, where researchers will study the samples brought back from the asteroid Ryugu. They hope to
(C)
find clues to the origin of both the solar system and life on Earth.

At a public viewing event near Tokyo, people erupted in cheers and applause.

"I'm so happy the capsule has returned home to Earth safely," an elementary school boy said. "Hayabusa2 did a great job."

Hayabusa2 has traveled 5 billion kilometers over the past six years. And it is already on a new mission to another asteroid. The probe is expected to reach its next destination in 11 years.

(注)	· probe (宇宙) 探査機	· retrieve 回収する	· asteroid 小惑星
	· atmosphere 大気圏	· treasure chest 宝の箱 (玉手箱)	· diameter 直径
	· clues 糸口、手がかり	· erupt 爆発させる	· applause 拍手
	· Japan Aerospace Exploration Agency JAXA		

問1. 本文中の次の単語について、最も強く発音する音節を番号で答えなさい。

1. Aus·tral·ia 2. at·mo·sphere 3. par·a·chute 4. of·fi·cial 5. hel·i·cop·ter
1 2 3 1 2 3 1 2 3 1 2 3 1 2 3 4

問2. 下線部 (A)・(B)・(C) を訳しなさい。

問3. 次の1~6の文について、本文の内容に合致するものには○、そうでないものには×をつけなさい。 (全部○、または×は不可)

- 日本の宇宙探査機「はやぶさ2」はカプセルを積んで地球に完璧に着地した。
- オーストラリアの星を観測する人たちに、流れ星のように見えたものは、「はやぶさ2」からのカプセルが地球の大気圏に突入したものであった。
- JAXAの職員は搜索ヘリコプターが見つけた直径40センチの鍋型容器のカプセルに“宝の箱(玉手箱)”と名付けた。
- 研究者たちは小惑星“リューグウ”的サンプルから、太陽系と地球の誕生との両方の起源への手がかりを見つけるとしている。
- 「はやぶさ2」は過去6年間で宇宙を5億キロ飛行した。
- 「はやぶさ2」は新たなミッションで11年かかる別の小惑星探査のために再び発射された。

2023年度 第41期生前期 入学試験問題

(国語)

泉州看護専門学校

一 次の文章を読んで以下の問いに答えなさい。

【高田 郁『ふるさと銀河線 軌道春秋』「ムシヤシナイ」（一部省略）より】

JR大阪環状線の駅のひとつであるT駅は、私鉄電車と接続するため、乗降客が非常に多い。朝夕の通勤通学の時間帯は無論のこと、そうではない日中も、実に多様な客がプラットホームに溢れている。

そのホームの大坂寄りに、客が十人も入れば酸欠になりそうな、小さな蕎麦屋があった。「駅そば」と呼ばれる立ち食い蕎麦の店で、早朝から昼過ぎまでは若い店員が、昼過ぎから夜にかけては六十代半ばの店長が、それぞれアルバイトと二人三脚で切り盛りしていた。

秋元路男は、もとは町の製麺工場で働いていたが、定年を機にT駅構内の駅蕎麦屋を任されるようになつたのだ。三百円あれば蕎麦なりうどんなりで空腹を満たせる手軽さと、箸を置くや否や電車に駆け込める便利さが受けて、店には終日、客足の絶えることがない。

周辺には常に⁽⁷⁾出汁の香りが立ち込め、時折、そこに特有のネギの匂いが混じる。吐く息も凍る冬には、刻みネギをどつさり入れたネ

ギうどんや、ネギ蕎麦を注文する客が増えるからだつた。

到着した電車から乗客が吐き出され、そのうちの何人かが駅蕎麦の店内へと吸い込まれる。午後九時の閉店まで残り五分、そろそろ最後の客になるだろう。

「きつねうどん、ください」

食券をカウンターの上に置く、その手が随分と小さい。顔を見れば、馴染みの小学生だった。塾帰りらしく重そうな鞄を背負い、他の客の邪魔にならないよう隅の壁にもたれて注文の品の出来るのを待つのも、見慣れた情景だつた。

「きつねうどん、熱いから氣いつけてや」

カウンターの端に丼を置くと、路男は小学生に声をかけた。

店の奥の掛け時計はそろそろ九時にならうとしている。小学生と一緒に入店した客たちは次々に丼を放し、帰つてしまつた。

九つか、十。学年でいえば小学校四年生くらいだろうか、少年は時間を気にして、懸命に箸を動かしている。

「まだ大丈夫や、ゆっくり食べべ」

これもいつものことで、路男は洗い物をしながら少年に話しかけた。

結局、閉店時間を十分過ぎて、少年は満足そうに箸を置く。

「ごちそーさまでした」

「おおきに、気いつけて帰りや」

暖簾をしまいがてら、少年を送つて外へ出る。

ぎつしりと勉強道具が詰め込まれているのだろう、小さな肩に食い込む鞄を背負い、まだ疲れの残る足取りで、少年はホームの雑踏に紛れていつた。

『九時いうたら、子供はもう布団の中で夢の世界と違うんか』

わしがガキやつた時分とはエラい違いや、と路男は胸のうちに呟く。

塾か別勉強か知らないが、まだ小さい子があれほどまでに疲弊する必要があるのか。路男にはそれがわからない。

『まるで、弘晃^(ひづあき)みたいやないか』

弘晃、というのは、路男のただひとりの孫だった。

路男の一人息子の正雄は、大学進学で東京に出て、そのまま就職し、所持を持った。そこに生まれたのが、弘晃だった。

弘晃は小学校に上るとすぐ、塾に通い始めて、小学校四年生の頃に帰宅時間は夜の十時を回る、と聞いていた。お盆に一家で帰省した時でさえ、正雄ら両親は、弘晃に公開模擬試験を大阪で受験させる徹底ぶりだった。

幼い弘晃が⁽⁸⁾疲弊していく様子に胸を痛めていた路男にとって、その無理強いは許しがたかった。正雄と激しい口論となり、結果、今なお絶縁状態にある。従つて路男の中の弘晃も小学校四年生の姿のままだつた。

やれやれ、と路男は軽く首を振ると、外した暖簾を手に、店に入ろうとした。

「あの……」

後ろから路男に声をかける者がいた。

振り返つてみれば、ひょろりと細い体軀の若い男が立つている。高い上背と、切れ長のきつめの双眸とで大人びて見えるが、頬のあたりに幼さの名残りを留めていた。まだ辛うじて「少年」と呼べる範疇にある。

これくらいの年頃の子がひとりで駄菴に入店するのは、なかなかにハードルが高いものらしい。券売機の前で悩み、店内を覗いて悩み、結局は入れないで引き返してしまったケースは、わりによく見受けられた。

勇気を振り絞り、入店する気になつたのか、と少しばかり氣の毒に思いながらも、路男はヨクヨク^①のない声で告げる。

「すんません、もう閉店なんで」

路男の台詞に、彼は軽く目を見張つた。その目尻に小さな黒子^{ほくろ}がふたつ、横に並んでいる。路男はそれに目を留めて、おや、と首を捻つた。

何処かで見たような……。

そう思つた瞬間、塾の鞄を背負つた小さな孫の面影が浮かんだ。綿糸を思わせる細い髪、少し上を向いた愛敬のある鼻、子供らしい円らな瞳。幼い日の愛らしい孫の姿を目の前の少年に重ね合わせることは難しいはずが、ふたつ並んだ黒子が両者をぴたりと一致させた。

まさかそんな、と思いつつも、路男は声を上げずにはいられない。

「弘晃、お前、弘晃なんか？」

路男にそう呼びかけられて初めて、少年は安堵の表情を見せた。

「ジイちゃん」

耳に馴染んだ呼び名を、聞き慣れない声で呼ばれる不思議。五年ぶりに再会した孫の弘晃に間違いなかつた。

日付が変わつて間もなく、路男は深い眠りを何かに遮られた。

ううう、ううう、と地鳴りの如く響く音に、何事か、と飛び起きる。

「ううう、うううん」

音の正体が隣りで眠る孫の呻き声と知つて、闇の中、手探りで電気スタンドを捲す。丸い橙色^{だいだい}の明かりが孫の方に直接当たらぬようになづらしてから、その様子を眺めた。

『可哀相に。えらいうなされて』

寒いだろうに、弘晃は掛け布団を投げ出し、背中を丸め、手足をぎゅっと縮めて眠つている。

路男は孫に布団を掛け直して、しげしげとその顔を覗いた。

中学三年生とはまた、随分と大きくなつたものだ。目尻にふたつ並んだ黒子があるとはい、町なかで擦れ違つたとしたら、これが弘晃だと氣付くことはなかつただろう。

だが、成長の喜びとは別に、この様子は何としたものか。

血の氣の失せた顔、深く刻まれた眉間の皺、おまけに目の下には疲労がくまを作つていた。眠つていてさえ、固く噛んだ下唇が痛々しい。

「うう、ううう」

噛み締めた唇から、なおも呻き声が洩れる。

路男は遣り切れなさに、小さく首を振つた。

『どうや、この怯え方。子供の寝顔と違うがな』

年に一度しか会えなかつたが、赤ん坊だった頃から十歳になるまでの可愛い盛りを知つてゐる身。五年の空白を経て、これほどまでに

怯え、疲弊した姿を目の当たりにするとは思わなかつた。

どないしたものんやろかなあ。

路男は箪笥^②の上に視線を向けた。そこに置かれた亡妻恵子^{けいこ}のイエイ^③と目が合う。

——お父さん、何とか助けたつてえな

そんな恵子の声が聞こえてきそつた。

火の氣のないアパートの一室に戻ると、路男はそのまま台所に立つた。

「虫養い、いう言葉が大阪にはあるんや」

出来上がつた二人分の蕎麦を電気コタツの上に並べて、路男は弘晃に語りかける。

冷えた室内に、井からはほかほかと柔らかな湯気が立っていた。

「ムシャシナイ?」

どんな文字をあてるのか、⁽³⁾カイモク見当もつかないのだろう、外来語にしか聞こえない口調で、弘晃は繰り返すと、熱い井に手を伸ばした。ああ、と祖父は頷き、孫のために瓢箪型の七味入れを取つてやる。

「軽うに何ぞ食べて、腹の虫を看めとく、という意味や」

「ふーん」

興味の湧かない声で応えて、弘晃は熱々の蕎麦を口に運ぶ。一口すすって気に入ったのか、ズズズッと美味しそうに食べ進めた。

目を細めてその様子を眺めていた路男だが、ゆっくりとした仕草で急須を取り上げ、茶葉にポツトの熱湯を注ぐ。

「今日みたいに寒い日には、湯気がご馳走や」

湯気の立つ湯飲みを孫の手もとに置いて、祖父はさらに続けた。

「帰ればご飯が待つて。時間さえあれば、ゆっくり食事が出来る。懷に余裕があつたら、派手なご馳走も食べられる。でも今は、そういうわけにいかん。せやから、取り敢えず駅蕎麦で虫養いして、力を補う——そういう虫養いを、ジイちゃんは大事に思うんや」

話の途中から、弘晃は箸を止めて、じつと祖父の双眸を見つめていた。聞き終えて、何か言いたげに弘晃は唇を開きかけ、しかし、またきゅっと一文字に結び直した。

トゥルルル

トゥルルル

秋元家の電話が鳴つたのは、丁度その時だった。咄嗟に弘晃がぎくりと身を固くする。勧誘か間違いか、あるいは悪戯でしか鳴ることのない電話だったが、その受話器に、路男が躊躇いなく手をかけた。

「はい、秋元です」

名乗つたあと、受話器の向こうの声を聴いて、路男は唇を僅かに歪めた。思つた通り、電話の主は東京の正雄だったのだ。弘晃が家を出て一日、正雄は漸く、息子の立ち寄り先として大阪の路男のことを思い出したのだろう。

無沙汰を詫びるでもなく、老父の暮らしぶりを尋ねるでもなく、单刀直入に弘晃の消息を問う正雄に、路男は苦い表情のまま答える。「ああ、弘晃なら来てるで。暫くうちに預かるさかい。……えつ? 何やて?」

視野の隅に、固睡を呑んで様子を窺う弘晃が映つている。路男は身体ごと電話に向き直り、声を低めた。

「『勉強が遅れる』で……お前、それ本気で言うてんのか」

恵子が生きていれば、上手にとりなしたかも知れない。だが、路男は良い齢をした息子のあまりの愚かさに、このド阿呆! と受話器に向かつて罵声を浴びさせていた。

「おんどれは父親のクセしてから、子供を潰す氣か。いつへん目え覚まんかい!」

がしゃん、と怒りに任せて受話器を叩きつけたものの、煮えたぎった憤怒はそう簡単には路男から去らなかつた。

音のない一室に、古い掛け時計の秒針だけが妙に大きく響いている。

振り返り、孫の様子はと見れば、弘晃は卓上に置いた握り拳をわなわなと震わせていた。必死で感情の爆発に耐えているその姿を目にして、路男は黙り込んだ。

どれほどそうしていただろうか、弘晃が、オレ、と掠れた声を絞り出した。

「オレ、親父を殺すかも知れない」

部屋の空気が一瞬、薄くなつた。

弘晃が苦悩の果てにその台詞を口にしたことが容易に察せられて、路男は敢えて無言のまま、真剣な眼差しを孫へと向けた。

弘晃は右の拳で唇を覆い、くぐもつた搖れる声で打ち明ける。

「目の前に包丁があると、親父を刺しそうな気がして息が出来ない。いつか自分で自分をコントロール出来なくなる。そしたら……」

弘晃の肩が、上腕が、小刻みに震えだした。双眸に激しい怯えが宿り、うつすらと涙が膜を張つている。

「そしたら、オレ……親父を……」

「弘晃」

見かねて路男は孫の名を呼び、その背中に手を置いた。

刹那、下瞼で辛うじて止まつていた涙が、色の失せた頬へと滑り落ちる。

「ジイちゃん、オレ……自分が恐い」

恐くて堪らない、と言葉にすると、弘晃は両の掌を開いて顔を覆つた。

怯えの根源を口にしたことで、弘晃を支えていた何かが崩れたのだろう。十五歳の少年は、電気コタツの天板に突っ伏して嘆く。

ほんの数時間前にかけた鍵を外し、明かりをつけると、路男は弘晃を厨房に招き入れた。

落ち着かない様子で店内を見回す孫には構わず、ネギの根を落とし、流しで洗つて俎板に束ねて置き、包丁を添えた。

「さて、と。弘晃、こっちおいで」

声をかけられて、祖父の方へ向き直った弘晃だが、俎板に置かれた包丁を認めるときよつとして両の肩を引いた。

「ジイちゃん、オレ、包丁は……」

両腕を後ろに回して身を強張らせる弘晃に、路男は緩やかに頷いてみせる。

「大丈夫、ジイちゃんが手え添えたるよって」

祖父に言われて、孫は俎板の前に立つと、恐る恐る包丁の柄を握つた。朴の木を用いた白い柄を、しかし、弘晃は掌に包むだけで精一杯の様子だった。

「もつとしつかり握らなあかん、かえつて危ないで」

こうするんや、と路男は孫の手に自分の手を添え、がちがちに固まつた指を解して、正しく持たせた。

「せや、『小峯にぎり』いうてな、この持ち方を覚えたら、これから先、色々と役に立つ」

そうして、ネギに刃をあてがうと、

「よつしや、ほんならネギ切つてみよか」

と命じ、手を添えたまま刻み始めた。

切りたくない、との思いが弘晃の腕を重くする。難儀しながらも、路男は弘晃を導き、さくつさくつとネギに刃を入れていく。

「口に障らん厚み……これくらいの小口切りにな。ほな、自分で切つてみ」

見本を示すと、祖父は孫の右手を解放した。

必死の④ギヨウソウで、弘晃は包丁を握り締めて、ネギを刻む。ざく、ざく、とぎこちない包丁遣いは、しかし、暫くすると、さく、

さく、と徐々に柔らかな音へと変化していく。それにつれて、弘晃の身体の強張りは取れ、表情も少しずつ穏やかになっていく。

「いくつもの塾をかけ持ちして、実力以上の中学に受かった。けど、入つてみたら秀才がゴロゴロ。授業についていくのがやつとだつた」

路男はただ無言で、孫の打ち明け話に耳を傾ける。

「親父には努力が足りない、と殴られてばかり。でも、足りないのは努力じゃなくて、能力だつたんだ。三年通つてそれが身に沁みた」自身に言い聞かせるような口調だつた。

たかだか十五歳で、自身の人生を諦めた様子の弘晃の姿が、路男には胸に応える。それに耐えて、祖父は孫の包丁遣いを見守つた。

さくつさくつ、という包丁の音は、何時しか、とんとんとん、と軽やか音色へと育つていた。俎板の上で包丁がリズミカルに踊り、正確な厚みでネギが刻まれていく。用意したネギの束もそろそろ尽きようとしていた。

「仰山できたなあ、おおきにな、弘晃」

業務用の笊に山盛りになつた刻みネギを示して、路男は弘晃に笑みを向けた。

「上手いこと使えるようになつたな。——もう大丈夫や」

孫に手を差し伸べ、弘晃の右手を包丁ごと、自身の両の掌で包み込む。包丁の刃先が路男の腹を向いているのを知り、弘晃は怯えた目で祖父を見た。

「弘晃、お前はもう大丈夫やで」

逃れようとする孫の手をしつかりと握つたまま、路男はぎゅっと目を細めてこう続けた。

「包丁は、ひと刺すもんと違う。ネギ切るもんや。この手えが、弘晃の手えが覚えよつた」

「あ……」

弘晃の瞳に涙が浮き、^⑤マタタ(く)マに溢れだす。堪えようとして堪えきれず、戦慄く唇から嗚咽が洩れ始めた。

心配要らん。

弘晃、もう何も心配要らん。

号泣する孫の背中を撫でながら、祖父は幾度もその胸のうちで繰り返した。

翌日の昼過ぎ、乗降客の行き交うホームに、弘晃と路男の姿があつた。
駅舎麦屋の制服に前掛けを締めた路男の姿はひと目を引きそつたが、案外、気に留める者は居ない。

乗車を促す笛の音が響いて、弘晃は祖父を振り返った。

「親父とちゃんと話すよ。色々、ほんと色々、ありがと、ジイちゃん」

来た時とは別人のような、晴れやかな笑顔だった。路男は大きく頷いてみせた。

「氣いつけてな、弘晃」

「また来るから」

弘晃が電車に乗り込んだ瞬間、ブシューッと間延びした音がして、扉が両側から閉じられようとした。

扉が閉まる直前、弘晃が早口で言つた。

(ハ)「ムシヤシナイさせてもらいに、オレ、何度でも来る」

孫を乗せた電車がホームに出て、その姿が消えてしまうまで見送ると、路男はぼそりと呟いた。

「ムシヤシナイ……何やあいつが言うと、外国語に聞こえるがな」

声に出してみれば、胸に宿っていた寂しさが消えて、路男はからからと笑い声を上げる。

次の電車の入線を告げるアナウンスが、師走のホームに響いていた。

【設問】

問一 ①～⑤のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 傍線(ア)～(オ)の漢字をひらがなで記しなさい。

問三 この作品の視点人物は誰ですか。

問四 二重傍線(イ)「体躯」の類語を2つ書きなさい。

問五 二重傍線(ハ)「『このド阿呆！』と受話器に向かって罵声を浴びせていた」という言葉から読み取れる路男の気持ちについて書きなさい。

問六 二重傍線(ハ)「『ムシヤシナイさせてもらいに、オレ、何度でも来る』」という言葉から読み取れる弘晃にとっての「ムシヤシナイ」の意味について書きなさい。

二 次の文章を読んで以下の問いに答えなさい。

【椎名美智『させていただく』の使い方】（文中写真とあります、写真は省略）より

用例を採集する

この章では、「させていただく」に対する私たちの言語感覚に^①ショウテンを当てます。実例を紹介しながら、どのように使われるか、どのような違和感が生じるのかを見てていきます。

ここではまず、私が街中で採集した用例をいくつか取り上げます。『サザエさん』の例も紹介します。日常生活で、私たちはたくさん「させていただく」に遭遇します。違和感があつたりなかつたり、感じが良かつたり悪かつたり、印象は様々です。解説は、あくまでも私個人の受け取り方なので、他にも様々な解釈が可能だと思います。同じ言葉なのに、聞く人によって、場合によって、様々に解釈されると考えるのが語用論なので、みなさんも考えてみてください。

A

散歩がてら都内の美術館に行つた時のことです。チケットを見せて中に入ろうとすると、受付の人には「館内での飲食は禁止させていただいております」と言されました。^②アワてて持つていたペットボトルをバッグにしまいました。ア、それでもまだ強い

視線を感じます。

イ

「中での飲食は禁止させていただいております」と言われてしまいました。

自分に向けられた言葉だということは視線で感じるのでですが、何を言わっているのか、意味がわかりません。「なんなのだろう?」と係の人の方を振り向くと、「口の中に何か入つてますよね」と言われました。「あ、ガムが」と言うと、係の人は「そうだ」と言わんばかりにうなずきました。ウ 美術館に向かう道すがら、私はガムを噛んでいました。捨てるタイミングがなくそのまま口の中に入つていましたが、飲食をしている感覺はまったくありませんでした。

仕方なくガムを飲み込んで、会場に入らせてもらいましたが、絵を^③カンショウしながらも、しばらく苦い思いがしました。こういうのを忸怩たる思いというのでしょうか。

エ 美術館に入る時のマナーが欠けていたのは私です。常識が足りなかつたし、不注意だったと反省しています。係員の方は任務を正しく、しかも丁寧に遂行しただけだということも、ちゃんとわかっています。頭では重々わかっているのですが、感情はそれとは別の次元でモワモワと沸き起るものです。

ソフトクリームの立ち食いじやあるまいし、たかがガムなのに「館内での飲食は禁止させていただいております」は大袈裟なんじやないかとか、丁寧すぎて懲懲無礼なんじやないかなどと、大人気なく少し気分がモヤモヤしてしまいました。あんなにもつたいぶつた言い方ではなく、「あのー、ガムは出してください」と、自分の言葉でダイレクトに言われていたら、すぐにわかつたし、もつと素直に受け取れたのに、と思いました。

話し手の側の意図や丁寧な気持ちが、聞き手側にそのまま伝わるわけではないことを身をもつて知る機会となりました。まさに語用論的な体験でした。

そういえば、敬語の講演会で受付の人に「受講票を確認させていただきます」と言われて、激怒している年配の男性を見たことがあります。その方は講演後の質疑応答の時間に真っ先に手をあげて、「私には許可を与える権威があるわけでもないのに、そんな言い方をするのは失礼ではないか」と言つっていました。講演者は「受付の人は『受講票を見せてください』を、丁寧に言おうとしたのだと思います」と答えしていました。しかし、その方は納得がいかなかつたらしく、講演者が答え終わるか終わらないかのうちに、椅子を蹴って会場を出て行つてしましました。

周りの人は唖然として彼の背中を見送っていました。その時の私は、なぜそこまで腹が立つか、とても不思議でした。でも、同様の体験をした今は、彼の腹立しさがわかります。なんだか腹が立つのです。理屈ではなく、感情のところで反応しているのです。懲勸無礼というのは、気がついてしまうと、とても腹の立つものなのです。

受付の人が「受講票を見せてください」と依頼形で言つていたら、彼もあそこまで腹を立てなかつたかもしれません。「いただく」と言つて相手と関わろうともせず、業務を遂行していくだけというニュアンスが不愉快だったのではないかと思います。

オ しかし私の『させていただく』アルバムにお付き合いください。

B

少し前に、駅でこんなポスターを見つけました。

二三ページ上の写真は池袋の私鉄の駅にあつたポスターです。「発売を終了させて頂きます。お並び頂きましても、ご購入頂けない場合がござりますので、あらかじめご了承ください」とあります。「させていただく」を含め、「いただく」が何度も使われています。ともに丁寧だとは思いますが、丁寧すぎて、切符が買えなかつたお客様からクレームを言われないように、防衛手段として書いているのではないかとカング^④つてしましました。

同じく中段の写真には「この場所は、JR敷地内にて、物品販売、(中略)演説等、禁止させていただきます。北小金駅長」と書いてあります。こちらは「やつてはダメ」という禁止命令なのですが、やはり「させていただきます」が使われています。駅長さんは駅の最高責任者なのだから、他の乗客の迷惑になりかねない行為をストップさせたいのなら、キッパリと「禁止します」と書いてもよさそうな気がします。その方がストレートに意図が伝わるのではないかと思いますが、どうでしょうか?

一般に、駅のポスターはとても丁寧なのですが、いつもそつだとは限りません。

C

下の写真は、緊急事態宣言発出後に、新宿の私鉄駅で見つけたポスターです。「緊急事態宣言発令に伴う国土交通省、(中略)からの要請により(中略)深夜帯の列車運行を減らします」とあります。「させていただく」なしに「減らします」とキッパリ言い切っています。このポスターだけを見ると、普通だと思うかもしれませんのが、先ほど見た「終了させていただきます」や「禁止させていただきます」と比べると、かなり^⑤クチヨウが異なり、受ける印象も異なります。鉄道会社が自分たちの行為を宣言する際、自身の責任や判断の下になす行為だと「させていただく」を使うけれども、国などから要請を受けた行為だと「させていただく」を使わないという明確な使

い分けがなされていることがわかります。

駅側としては、自分の職権内の問題で全責任を自分が負うのか、それとも背後に大きな権威があつて自分はその指示に従つているだけなのかを意識して、乗客に対しても使うべきへりくだりや丁寧度を変えたいと考えたのでしょうか。それが「させていただく」の使用・不使用として、ここに表面化しているのだと思います。

理由は何であれ、駅で見るいつもの言葉遣いと著しく異つてることを見逃せません。

【設問】

問一 ①～⑤のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 傍線⑦～⑩の漢字をひらがなで記しなさい。

問三 A～Cの□にふさわしい小見出しを選び、その番号を書きなさい。

- ①「終了させていただきます」
- ②「させていただく」は使わない
- ③「飲食は禁止させていただいております」

問四 ア～オの□に当てはまる言葉を下記から選び、その番号を書きなさい。

- ①そしてまた
- ②もちろん
- ③しかし
- ④それでは
- ⑤そういえば

問五 二重傍線「しばらく苦い思いがしました」を筆者は別の言葉で言い換えていました。その言葉を文中から抜き出して書きなさい。

問六 駅側として、「させていただく」を使うのは、次のどちらの場合であると筆者は考えていますか。当てはまるものの番号を書きなさい。

- ①自分の職権内の問題で全責任を自分が負う場合
- ②背後に大きな権威があつて自分はその指示に従つているだけという場合

三 次の問いに答えなさい。

【設問】

問一 □の中に漢数字を入れて、四字熟語を完成させなさい。

- ①直行
- ②地獄
- ③承諾
- ④濁流
- ⑤虚偽
- ⑥岡目
- ⑦穀豊穰
- ⑧五臓
- ⑨轢八倒
- ⑩朝三暮四
- ⑪者扱一
- ⑫贅沢昧
- ⑬攫千金
- ⑭讀者遍